

令和 5 年 4 月 11 日現在

機関番号：12603

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2018～2022

課題番号：18H00663

研究課題名(和文) タイ文化圏に関する言語事典の編纂に向けて

研究課題名(英文) Preparation for a Language Encyclopedia of the Tay Cultural Area

研究代表者

新谷 忠彦 (SHINTANI, TADAHIKO)

東京外国語大学・その他部局等・名誉教授

研究者番号：90114800

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 12,700,000円

研究成果の概要(和文)：タイ、ミャンマー、ラオス、中国が国境を接する一帯(タイ文化圏)は、これまで科学的な言語データが殆ど存在しない空白地帯に置かれていた。積極的な現地調査を行って、データの整理・公開を進め、29言語(内、24言語は新発見言語)のデータを公開した。特に、数多くのカレン系少数言語のデータ収集により、カレン祖語の開音節に3つの声調があったことを実証した。この地域の言語には、一つの意味単位の前部が圧縮される言語と後部が圧縮される言語があり、歴史音韻論研究ではこの二種類の言語を区別して扱う必要性を明らかにした。全体で100種類を大きく上回る言語のデータが集っており、「タイ文化圏言語事典」編纂の基盤が整った。

研究成果の学術的意義や社会的意義

現代言語学の基本理論はヨーロッパの言語研究に基づくものである。ヨーロッパでは主要民族が短期間に異民族を駆逐して広まっていった。これに対し、タイ、ミャンマー、ラオス、中国雲南省が国境を接する一帯(タイ文化圏)では、13世紀から20世紀にかけて、盆地をタイ系民族が支配し、周辺の山地民をその社会に組み込む形でたくさんの小王国が存在していた。長年にわたって異民族が接触し続けていたために言語音変化に不規則な点が多く見られる。この地域の言語を研究することで既存の言語理論をより汎用性の高いものに発展させることができる。現地調査で数多くの新言語が発見され、質・量両面で世界に例のない言語データが収集できた。

研究成果の概要(英文)：The Tay Cultural Area encompasses the Northern parts of Thailand, Myanmar, Laos, and the South-Western and Southern parts of Yunnan province, China. The scientific data concerning the languages of this area has been very scarce, but our field research conducted by this project succeeded in collecting many unknown languages existing in this area. We published the data of 29 languages (24 of them are newly discovered ones) during 5 years of our project. Using our newly collected data about the Karen languages, we succeeded in proving that there existed three proto tones in the unchecked syllable of this language group. We became aware that there are two types of languages among the languages of this area, namely initial-focused and ryme-focused, and that these two types of languages must be treated separately for the study of historical phonology. By obtaining the data of more than 100 languages, we are prepared now for a "Language encyclopedia of the Tay Cultural Area".

研究分野：言語学

キーワード：タイ文化圏 カレン語 カヤン語 モン・クメール語 ワ語 歴史音韻論

1. 研究開始当初の背景

(1) 現代言語学の基本理論はヨーロッパの言語を対象とした研究に基づくものである。ヨーロッパ系言語の研究から生まれた「音韻法則」は、アジアの言語に適用しようとするとなかなか不規則な点が出てくる。このことは音韻対応の面ばかりではなく、その他の言語の様々な側面でも観察することができる。この原因は、ヨーロッパの主要民族(言語)は短期間に異民族(言語)を駆逐しながら広まっていった民族(言語)であるのに対し、アジアでは長年にわたって異なる民族(言語)が接触しながら共住してきたことによるものと考えられる。そこで、こうしたアジアの言語における不規則な言語変化を詳細に観察することによって、従来の言語理論を、より幅広い言語の研究に適応できる道筋を探ることができる。

(2) タイ、ミャンマー、ラオス、中国雲南省が国境を接する一帯(タイ文化圏)では、13世紀から20世紀にかけて、盆地を支配するタイ系民族が周辺の山地民をその社会に組み込む形でたくさんの小王国が存在していた。山地民には、チベット・ビルマ系、モン・クメール系、ミャオ・ヤオ系など、タイ系とは言語系統を異にする小さな集団がたくさんある。また、周辺の大言語として漢語、ビルマ語、タイ語、ベトナム語などとも接触を持っていた。こうした状況は、言語接触による言語変化を観察するには絶好な場所である。しかし、この地域は長年にわたる政治的・地理的な悪条件から現地調査ができておらず、科学的な言語データが乏しく空白状況がずっと続いており、未知の言語がたくさんある。

(3) 困難な状況下にあっても、1974年以来、臨機応変に現地調査を進めてきた結果、100言語を優に超える大量のデータが蓄積され、その質・量の両面において世界で圧倒的な地位を占めるに至った。データが収集された言語の大部分は、これまでほとんど科学的データが存在しないか名前さえも知られていなかった未知の言語で、世界の主要な機関や研究者からデータの照会が多数来るようになった。こうした要請に答えるとともに、現地への成果還元を目指し、2014年から、収集できたデータを整理してLinguistic Survey of Tay Cultural Area (LSTCA)として順次公開を始めた。

(4) 言語データの整理・公開を進めていく中で、言語状況がほとんどわからない空白地帯であったタイ文化圏について、どこにどのような言語があり、どのような形態を持った言語なのか、話し手の数はどのくらいか、など、この地域の言語状況全体を俯瞰でき、これからの調査の出発点になるような「タイ文化圏言語事典」の編纂の必要性を痛感するとともに、一層の積極的な現地調査によって意図するような事典を編纂できる可能性が見えてきていた。

2. 研究の目的

(1) これまでに収集された言語データの整理を進め、整理の終わったものから順次公開し、「タイ文化圏」全体の言語状況が把握できるような言語事典を作成するための基盤整備を進める。そのために必要な補充調査を実施するとともに、更なる新言語の発見に向けて積極的な現地調査を実施する。

(2) これまでの調査は主に語彙データの収集に集中しており、無文字言語を記録する三点セット(語彙集、文法書、口述テキスト)の完結に向けて文法調査や口述テキストの収集にも力を注ぎ、世界最先端のタイ文化圏研究拠点としての強固な基盤を作り上げる。

3. 研究の方法

(1) 必要な補充調査をしながら、これまでに蓄積された言語データを整理して順次公開する。

(2) 公開した言語を地図上に落とし込み、必要な情報が一目でわかるような「タイ文化圏言語事典」の原型を構築する。

(3) 新たな言語データの収集に向けて、積極的な現地調査を続ける。

(4) 従来の語彙調査中心から、文法調査や口述テキストの収集にも力を入れた調査を行う。

4. 研究成果

(1) 当初計画していた現地調査は、2018年度及び2019年度は極めて順調に進展し、特に、カヤン系言語について多くの未知の言語を発見し、そのデータを収集することができた。また、タイでのモン・クメール系言語の調査も順調に進展し、口述テキストの収集と文法分析を行うことができた。しかし、2020年度、2021年度は新型コロナウイルス感染症のパンデミックにより、現地調査は全くできなかった。2022年度の終盤になりようやくタイでの調査が可能になり、ワ語の調査を行い、口述テキストの文字化と分析を行うことができた。

(2) 言語データの整理・公開の方は極めて順調に推移し、期間中29種類の言語データをLinguistic Survey of Tay Cultural Area(LSTCA)として公開できた。このうち、24言語はこれまで全く名前も知られていなかった未知の言語で、残りの5言語も名前だけは知られていたが、

科学的データが不十分な言語ばかりである。本研究課題発足以前に公開したのも含めると、トータルで 45 種類の研究未開発言語のデータが公開されたことになる。データ収集はできているが、いまだ公開に至っていない言語はまだ 100 種類くらいあり、「タイ文化圏言語事典」の基盤を構築するという本研究課題の目的は十分に達成することができた。

(3) カレン系言語の小さなグループについてはこれまでほとんど情報がなかったが、本研究課題による積極的な調査により、この系統の言語の全体像が明らかになってきた。これまでほとんど調査ができていなかった、ミャンマーのカヤー州、シャン州南部、カレン州北部のタンダウン地区で積極的な調査を行い、この言語グループの歴史音韻論研究にとって極めて重要なデータを収集することができた。

(4) カレン州タンダウン地区に存在する 296 の村落のうち、3 か村を除いた 293 か村について、どのような言語が使われているのかを詳細に調査し、それを一枚の地図に仕上げた。また、カヤー州とシャン州南部に分布するカヤンと呼ばれるグループの言語も詳細に調査し、こちらも一枚の地図に仕上げた。この二枚の地図ができたことはカレン系言語の研究にとっては画期的なことである。これまでタイに逃れた「パダウン」と呼ばれるグループがこの地域に住む人全体のように語られていたが、実際にはタイに移住してきたパダウンはカヤンの中のほんの一部にしかすぎないことが分かった。「パダウン語」とは全く通じそうもない言語がたくさん見つかった。

(5) カレン系言語の歴史音韻論研究で、長年論争になっている問題として、カレン祖語の開音節に声調が 2 つあったのか 3 つあったのかという問題がある。この問題について、本研究課題による調査で、3 つあったことが確実になり、実際に 3 声調を残している言語を見つけることができた。

(6) 2020 年に A Handbook of Comparative Kayan Languages を刊行したが、これによってカレン系言語の歴史音韻論研究に革新的な方向性を打ち出すとともに、タイ文化圏の言語研究全般に共通する理論的基盤も明確にした。つまり、タイ文化圏の言語ばかりではなく、もう少し広く東南アジアや中国大陸までを含めて、この地域の言語では、一つの意味単位が短く圧縮されている。ところが、この圧縮されるパターンには二種類あり、一つは前の部分が圧縮されるパターンであり、もう一つは後ろの部分が圧縮されるパターンである。この二つのパターンを明確に区別するためには、前者に属する言語を *rhyme-focused language* と呼び、後者に属する言語を *initial-focused language* と呼ぶことができるであろう。前の部分が圧縮される言語としては多くのチベット・ビルマ系の言語が挙げられるし、後ろの部分が圧縮される言語としては漢語やタイ語などが挙げられるであろうが、この二つのパターンと言語系統とは必ずしも一致しているわけではない。重要なことは、歴史音韻論研究を行うに際して、この二つのパターンを明確に区別して考える必要があるということである。カレン系言語の場合、音韻対応や声調対応がかなり不規則な点が多々見られるが、それは、タイ文化圏の中で広く分布するカレン系民族の内、一部は *rhyme-focused* な言語と接触し、他の一部は *initial-focused* な言語と接触したからに他ならない。このことは本研究課題で完成できた二枚の言語地図を見れば明らかである。言語接触によって *focus shift* が起こったと考えることで、これまで謎であったカレン系言語に関する諸問題の解決に道が開けてきた。

(7) タイ文化圏のモン・クメール系言語は、多くの場合、北方モン・クメール系の言語であるが、話し手の数が少ない小さなグループが多く、相互の差異はかなり大きい。小さな言語を一つ一つ丁寧に調査して言語変化の推移を地理的に辿っていく作業は、多くの時間と労力を要する作業である。このグループの中心言語のひとつであるパラウク・ワ語について、その文法書を 2020 年に刊行できたことは大きな成果である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 2件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 Atsushi, YAMADA	4. 巻 1
2. 論文標題 Word order in the Wa language	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Austroasiatic Syntax in Areal and Diachronic Perspective	6. 最初と最後の頁 135-154
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山田敦士	4. 巻 1
2. 論文標題 パラウク・ワにおける語の連結形式と意味	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 津曲敏郎先生古稀記念集	6. 最初と最後の頁 190-200
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山田敦士	4. 巻 8
2. 論文標題 パラウク・ワ語における量化表現	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本医療大学紀要	6. 最初と最後の頁 3-16
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yamada Atsushi	4. 巻 31
2. 論文標題 Writing Systems and Writing Culture of Parauk Wa	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 言語センター広報Language Studies	6. 最初と最後の頁 35-40
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計31件

1. 著者名 SHINTANI Tadahiko L.A.	4. 発行年 2018年
2. 出版社 Research Institute for Languages and Cultures of Asia and Africa	5. 総ページ数 292
3. 書名 Linguistic Survey of Tay Cultural Area No.117 The Makuri Language	

1. 著者名 SHINTANI Tadahiko L.A.	4. 発行年 2018年
2. 出版社 Research Institute for Languages and Cultures of Asia and Africa	5. 総ページ数 293
3. 書名 Linguistic Survey of Tay Cultural Area No.118 The Sonkan Kayan Language	

1. 著者名 SHINTANI Tadahiko L.A.	4. 発行年 2018年
2. 出版社 Research Institute for Languages and Cultures of Asia and Africa	5. 総ページ数 292
3. 書名 Linguistic Survey of Tay Cultural Area No.119 The Kokak Language	

1. 著者名 SHINTANI Tadahiko L.A.	4. 発行年 2018年
2. 出版社 Research Institute for Languages and Cultures of Asia and Africa	5. 総ページ数 293
3. 書名 Linguistic Survey of Tay Cultural Area No.120 The Dosanbu Kayan Language	

1. 著者名 SHINTANI Tadahiko L.A.	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Research Institute for Languages and Cultures of Asia and Africa	5. 総ページ数 293
3. 書名 Linguistic Survey of Tay Cultural Area No.121 The Sen Tsum (I-Mok) Language	

1. 著者名 SHINTANI Tadahiko L.A.	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Research Institute for Languages and Cultures of Asia and Africa	5. 総ページ数 293
3. 書名 Linguistic Survey of Tay Cultural Area No.122 The Phulon Kayan Language	

1. 著者名 SHINTANI Tadahiko L.A.	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Research Institute for Languages and Cultures of Asia and Africa	5. 総ページ数 293
3. 書名 Linguistic Survey of Tay Cultural Area No.123 The Lagu Kayan Language	

1. 著者名 SHINTANI Tadahiko L.A.	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Research Institute for Languages and Cultures of Asia and Africa	5. 総ページ数 293
3. 書名 Linguistic Survey of Tay Cultural Area No.124 The Totan Kayan Language	

1. 著者名 SHINTANI Tadahiko L.A.	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Research Institute for Languages and Cultures of Asia and Africa	5. 総ページ数 293
3. 書名 Linguistic Survey of Tay Cultural Area No.125 The Dokhoncon Kayan Language	

1. 著者名 SHINTANI Tadahiko L.A.	4. 発行年 2020年
2. 出版社 Research Institute for Languages and Cultures of Asia and Africa	5. 総ページ数 295
3. 書名 Linguistic Survey of Tay Cultural Area No.126 The Thamidai Language	

1. 著者名 SHINTANI Tadahiko L.A.	4. 発行年 2020年
2. 出版社 Research Institute for Languages and Cultures of Asia and Africa	5. 総ページ数 295
3. 書名 Linguistic Survey of Tay Cultural Area No.127 The Kanaw (Danaw) Language	

1. 著者名 SHINTANI Tadahiko L.A.	4. 発行年 2020年
2. 出版社 Research Institute for Languages and Cultures of Asia and Africa	5. 総ページ数 295
3. 書名 Linguistic Survey of Tay Cultural Area No.128 The Nantwei Kayan Language	

1. 著者名 SHINTANI Tadahiko L.A.	4. 発行年 2020年
2. 出版社 Research Institute for Languages and Cultures of Asia and Africa	5. 総ページ数 296
3. 書名 Linguistic Survey of Tay Cultural Area No.129 The Pimon Kayan Language	

1. 著者名 SHINTANI Tadahiko L.A.	4. 発行年 2020年
2. 出版社 Research Institute for Languages and Cultures of Asia and Africa	5. 総ページ数 295
3. 書名 Linguistic Survey of Tay Cultural Area (LSTCA) No.130 The Sonplao Kayan Language	

1. 著者名 SHINTANI Tadahiko L.A.	4. 発行年 2020年
2. 出版社 Research Institute for Languages and Cultures of Asia and Africa	5. 総ページ数 298
3. 書名 Linguistic Survey of Tay Cultural Area (LSTCA) No.131 The Pao Language (Its Taunggyi and Kokareit Dialects)	

1. 著者名 山田敦士	4. 発行年 2020年
2. 出版社 くろしお出版	5. 総ページ数 357
3. 書名 パラウク・ワ語	

1. 著者名 SHINTANI Tadahiko L.A.	4. 発行年 2020年
2. 出版社 Research Institute for Languages and Cultures of Asia and Africa	5. 総ページ数 380
3. 書名 Linguistic Survey of Tay Cultural Area (LSTCA) Extra Edition A Handbook of Comparative Kayan Languages	

1. 著者名 SHINTANI Tadahiko L.A.	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Research Institute for Languages and Cultures of Asia and Africa	5. 総ページ数 295
3. 書名 Linguistic Survey of Tay Cultural Area (LSTCA) No.132 The Dolan Kayan Language	

1. 著者名 SHINTANI Tadahiko L.A.	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Research Institute for Languages and Cultures of Asia and Africa	5. 総ページ数 295
3. 書名 Linguistic Survey of Tay Cultural Area (LSTCA) No.133 The Thaoku Kayan Language	

1. 著者名 SHINTANI Tadahiko L.A.	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Research Institute for Languages and Cultures of Asia and Africa	5. 総ページ数 295
3. 書名 Linguistic Survey of Tay Cultural Area (LSTCA) No.134 The Diklon Kayan Language	

1. 著者名 SHINTANI Tadahiko L.A.	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Research Institute for Languages and Cultures of Asia and Africa	5. 総ページ数 295
3. 書名 Linguistic Survey of Tay Cultural Area (LSTCA) No.135 The Pulon Kayan Language	

1. 著者名 SHINTANI Tadahiko L.A.	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Research Institute for Languages and Cultures of Asia and Africa	5. 総ページ数 295
3. 書名 Linguistic Survey of Tay Cultural Area (LSTCA) No.136 The Kabla Kayan Language	

1. 著者名 SHINTANI Tadahiko L.A.	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Research Institute for Languages and Cultures of Asia and Africa	5. 総ページ数 297
3. 書名 Linguistic Survey of Tay Cultural Area (LSTCA) No.137 The Kathan Kayan Lanugage	

1. 著者名 SHINTANI Tadahiko L.A.	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Research Institute for Languages and Cultures of Asia and Africa	5. 総ページ数 297
3. 書名 Linguistic Survey of Tay Cultural Area (LSTCA) No.138 The Kalondei Kayan Language	

1. 著者名 SHINTANI Tadahiko L.A.	4. 発行年 2022年
2. 出版社 Research Institute for Languages and Cultures of Asia and Africa	5. 総ページ数 295
3. 書名 Linguistic Survey of Tay Cultural Area (LSTCA) No.139 The Ramaku Kayan Language	

1. 著者名 SHINTANI Tadahiko L.A.	4. 発行年 2022年
2. 出版社 Research Institute for Languages and Cultures of Asia and Africa	5. 総ページ数 297
3. 書名 Linguistic Survey of Tay Cultural Area (LSTCA) No.140 The Kayin Phyu Language	

1. 著者名 SHINTANI Tadahiko L.A.	4. 発行年 2022年
2. 出版社 Research Institute for Languages and Cultures of Asia and Africa	5. 総ページ数 297
3. 書名 Linguistic Survey of Tay Cultural Area No.141 The Subao Kayan Language	

1. 著者名 SHINTANI Tadahiko L.A.	4. 発行年 2022年
2. 出版社 Research Institute for Languages and Cultures of Asia and Africa	5. 総ページ数 297
3. 書名 Linguistic Survey of Tay Cultural Area No.142 The Kadu Kayan Language	

1. 著者名 SHINTANI Tadahiko L.A.	4. 発行年 2022年
2. 出版社 Research Institute for Languages and Cultures of Asia and Africa	5. 総ページ数 297
3. 書名 Linguistic Survey of Tay Cultural Area No.143 The Huason Kayan Language	

1. 著者名 SHINTANI Tadahiko L.A.	4. 発行年 2022年
2. 出版社 Research Institute for Languages and Cultures of Asia and Africa	5. 総ページ数 297
3. 書名 Linguistic Survey of Tay Cultural Area No.144 The Hanti Kayan Language	

1. 著者名 SHINTANI Tadahiko L.A.	4. 発行年 2022年
2. 出版社 Research Institute for Languages and Cultures of Asia and Africa	5. 総ページ数 297
3. 書名 Linguistic Survey of Tay Cultural Area No.145 The Sonpu Kayan Language	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	山田 敦士 (YAMADA ATSUSHI) (20609094)	日本医療大学・保健医療学部・教授 (30127)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------